

第1期福岡県循環器病対策推進計画の振り返りと今後の方向性（案）

<全体目標>

項目	性別	計画策定時の当初値	R4実績（または最新値）	目標値（R5）	達成度		主な取組と課題、今後の方向性（案）
①健康寿命	男性	72.22年（R1）	72.22年（R1）	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	—	—	※下記参照
	女性	75.19年（R1）	75.19年（R1）		—		
②脳血管疾患の年齢調整死亡率（人口10万対）	男性	33.6（H27）	33.6（H27）	減少	—	—	
	女性	17.7（H27）	17.7（H27）		—		
③心血管疾患の年齢調整死亡率（人口10万対）	男性	42.3（H27）	42.3（H27）	減少	—	—	
	女性	23.9（H27）	23.9（H27）		—		

①については3年毎の調査で、R4年度の調査結果がR6年度に公表予定のため最新値なし
 ②③については5年毎調査で、R2年度の調査結果がR4年度に公表予定であるが、遅れておりR5.12月に公表される予定

A（達成）：達成率 100%
 B（改善）：達成率 10%以上100%未満
 C（変わらない）：達成率 △10%以上 +10%未満
 D（悪化）：達成率 △10%未満

【達成率の計算式】
 達成率（%）＝〔（R4実績又は最新値）－（当初値）／（目標値）－（当初値）〕×100

<「循環器病の予防や正しい知識の普及啓発」に関する目標>

項目	性別	計画策定時の当初値	R4実績（または最新値）	目標値（R5）	達成度		主な取組と課題、今後の方向性（案）
①高血圧の改善（収縮期血圧の推計平均値）	男性	135.6mmHg（H28）	126.9mmHg（R4）	130mmHg未満	A	高血圧は既に目標を達成。	<主な取組> ・簡単に作れて栄養バランスがよいヘルシーメニューの普及に向けた「満福レシピ」の開発、広報（発表レシピ：25、SNS発信：約647万回） ・減塩を推進するための有識者会議「福岡県食品減塩推進協議会」の設置 ・ヘルシーメニューを提供するふくおか食の健康サポート店の登録促進（1,742店舗） など <課題> ・レシピや店舗の発信が、意識変革を促す内容となっていない ・レシピは内食向け、サポート店の登録は外食向けであるため、中食向けの取組が必要 ・サポート店の公表では、どのメニューが野菜たっぷりなのかを示しておらず、実効性に乏しい <今後の方向性（案）> ・減塩の必要性を広く発信し、減塩への意識を高める ・減塩弁当等の販売を支援するなどにより、減塩しやすい環境を整える ・野菜摂取の必要性を広く発信し、野菜摂取への意識を高める ・弁当や総菜で野菜を多く摂取する工夫や、飲食店（外食）における野菜多めメニューを発信する
	女性	128.4mmHg（H28）	123.5mmHg（R4）		A		
②食塩摂取量（1日平均摂取量）	男性	10.9g（H28）	10.0g（R4）	8g	B	食塩摂取量は改善傾向にあるが、目標を達成しておらず更なる取組が必要。	
	女性	9.3g（H28）	8.7g（R4）	7g	B		
③野菜摂取量（1日平均摂取量）	男性	297.3g（H28）	258.5g（R4）	350g	D	野菜摂取量は悪化しており、成果をあげるための施策を再検討することが必要。	
	女性	272.2g（H28）	261.2g（R4）		D		
④運動習慣のある者の割合（20～64歳）	男性	21.7%（H28）	22.7%（R4）	36%	C	運動習慣のある者の割合、1日の歩数とともに悪化（又は変わらない）しており、成果をあげるための施策を再検討することが必要。	
	女性	22.5%（H28）	12.7%（R4）	33%	D		
⑤1日の歩数（20～64歳）	男性	7,699歩（H28）	7,318歩（R4）	9,000歩	D	運動習慣の必要性についての発信がほとんど行われていない ・歩数に応じてポイントが貯まるふくおか健康ポイントアプリは、ポイントを使える店舗が少ないことに加え、楽しめる機能が少ないため、登録者数が伸び悩んでいる ・市町村の健康教室や、県のスロージョギング体験会等では、対象者を大幅に増やすことは難しい	
	女性	6,862歩（H28）	6,395歩（R4）	8,500歩	D		
⑥80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合		66.7%（H28）	—	70%	—	—	<主な取組> ・歯科保健に係る普及啓発（オーラルフレイルに関する出張講座：5市町村6地域） ・小学校におけるフッ化物洗口導入に向けた支援（46校） ・高齢者施設、障がい（者）児施設職員に口腔ケア指導研修を実施（高齢者施設：1回配信・809回再生、障がい（者）児施設対象：2回配信・500回再生） ・事業所に向いて従業員に歯周病予防講習会を実施（27事業所・505人） ・入院時から退院時、在宅まで継続的な口腔管理を提供する「口腔管理推進室」の設置支援（8か所）など <課題> ・歯と口腔の健康を保つことが、糖尿病や心疾患等の予防につながることを周知が不十分 ・青年期から中年期の者に対する取組がほとんど行われていない ・小学校におけるフッ化物洗口が県全域に広がっていない <今後の方向性（案）> ・歯と口腔の健康を保つことが生活習慣病予防につながることを広く発信し、歯科保健への意識を高める ・小学校におけるフッ化物洗口の導入を推進

		計画策定時の当初値	R4実績 (または最新値)	目標値 (R5)	達成度		主な取組と課題、今後の方向性 (案)
⑦喫煙率		19.8% (R1)	—	13%	—	—	<p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ対策推進会議でたばこ対策の具体的な方策を協議 ・保健所での若年者の喫煙防止セミナーの開催 ・薬剤師に対する禁煙相談員の養成研修、卒煙サポート薬局の登録 喫煙防止セミナー：28回 (R3:24回) サポート薬局：848施設 (R3:800施設) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・禁煙相談員の養成研修や卒煙サポート薬局の登録を行ってきたが、薬局の現場において、禁煙相談を促す声掛け等があまり行われていない ・禁煙を促すための啓発をほとんど行っていない <p><今後の方向性 (案)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・禁煙相談員の養成研修において、相談を促す意識を高める内容を盛り込むとともに、薬局での相談実績を把握して今後の取組に活かす ・禁煙のメリットを広く啓発する (特に喫煙を始める前の年齢層 (高校生等) に対して)
⑧生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合		男性	16.5% (H28)	13.6% (R4)	13.0%	B	<p>リスクが高い飲酒は女性において悪化しており、成果をあげるための施策を再検討することが必要。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な飲酒量などに係る普及啓発 ・アルコール依存症の疑いがある人への適性飲酒指導 (631人) ・断酒会への支援 など <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク者 (飲酒運転違反者やアルコール依存症者) を対象とする取組の割合が大きく、一般の者への取組があまり行われていない <p><今後の方向性 (案)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正量を超える飲酒が生活習慣病のリスクを高めることを広く (特に女性に対して) 啓発する
		女性	6.5% (H28)	9.2% (R4)	6.4%	D	
⑨特定健康診査の実施率		50.3% (R1)	51.9% (R3)	70%以上	C	<p>特定健診、特定保健指導ともにほぼ現状維持で、目標を達成しておらず、更なる取組が必要。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の健 (検) 診受診促進月間に合わせ、保険者協議会など関係団体と作成した受診勧奨チラシを配布 (約5,000部) ・ナッジ理論を活用した特定健診受診を促すSNS広告等の発信 (約620万回) ・特定健診受診意欲を高めるため、特定健診の結果通知に「健康年齢」と改善アドバイスをお知らせするモデル事業を実施 (3市町、約8,500件) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナッジ理論を活用した発信により約14000人が県のホームページ (特定健診ページ) を閲覧していることを踏まえ、今後の発信においてもナッジ理論を活用することが必要 <p><今後の方向性 (案)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命を伸ばすためには特定健診を受けてメタボ対策することが重要であることを、ナッジ理論に基づいて発信する 	
⑩特定保健指導の実施率		26.1% (R1)	26.0% (R3)	45%以上	C		

⑥については、5年毎の調査で、R4年度の調査結果がR5.11月頃に公表される予定 (R3年度実施予定の調査がR4年度に延期となったもの)

⑦については、3年毎の調査で、R4年度の調査結果が、R5.12月頃に公表される予定

A (達成)	: 達成率 100%
B (改善)	: 達成率 10%以上100%未満
C (変わらない)	: 達成率 △10%以上 +10%未満
D (悪化)	: 達成率 △10%未満

【達成率の計算式】

$$\text{達成率 (\%)} = \{ (R4 \text{実績又は最新値}) - (\text{当初値}) / (\text{目標値}) - (\text{当初値}) \} \times 100$$

<「保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実」に関する目標>

		計画策定時の当初値	R4実績 (または最新値)	目標値 (R5)	達成度		主な取組と課題、今後の方向性 (案)
①救急要請 (覚知) から医療機関への収容までに要した平均時間		31.8分 (R1) 全国2位	34.6分 (R3) 全国4位	全国1位の水準 (参考R1:31.0分)	D	—	<p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の救急業務の充実強化を図るため救急業務メディカルコントロール協議会を設置 福岡県メディカルコントロール協議会の開催：2回 (R3:1回) 県内4地域のメディカルコントロール協議会の開催：9回 (R3:5回) 気管挿管救急救命士認定登録委員会の開催：3回 (R3:2回) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症発生・まん延時においても、時間がかからないようにすることが必要 <p><今後の方向性 (案)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症発生・まん延時においても、緊急性が高い循環器病患者の搬送、受入を円滑に行える体制を構築する
②脳卒中地域連携クリティカルパスを導入している医療機関数 (人口10万対)		0.67 (R1)	0.78 (R3)	増加	A	<p>いずれも増加しており、これまでの取組を継続することが必要。</p>	<p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療提供体制充実強化事業、在宅医療推進協議会運営事業、地域在宅医療支援センター事業、地域在宅医療センター機能強化事業にて、施策を実施 在宅医療提供体制充実強化事業による補助：30郡市区医師会 在宅医療推進協議会開催：2回 地域在宅医療センター (9保健福祉環境事務所に設置運営) 地域在宅医療推進協議会：9回開催 相談実績：1,720人
③虚血性心疾患地域連携クリティカルパスを導入している医療機関数 (人口10万対)		0.35 (R1)	0.41 (R3)	増加	A		
④在宅等生活の場に復帰した脳血管疾患患者の割合		53.7% (H29)	—	増加	—	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの在宅患者が、適切なリハビリテーションを受けられる体制の整備が必要 	
⑤在宅等生活の場に復帰した虚血性心疾患患者の割合		94.6% (H29)	—	増加	—		<p><今後の方向性 (案)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域での連携状況を把握する

④⑤については、3年毎の調査で、R2年度の調査結果がR3年度に公表予定であるが、いまだに公表されていない